

桑の里

コミュニケーションロボット導入

デイサービス利用者与会話や運動

社会福祉法人清和会が運営する上越市京田の「桑の里」は4日、会話できる人型のコミュニケーションロボット「PALRO（パルロ）」を導入した。富士ソフトが製造しているロボットで県内では初導入となる。

パルロは高さ約40センチ、重さ1・6キロ。会話とともに身振り手振りができる。相手を認識して名前などを記憶でき、自発的に会話することもできることから、認知症予防のための話相手やレクリエーション用に導入する施設が増えつつある。

桑の里は、デイサービス開設から今年で7年目を迎え、目先を変えたレクリエーションを取り入れようと導入を決めた。デビューとなったこの日、パルロは約15人の利用者とともに身振り手振りを交えながら「故郷」を歌い、体操もした。利用者には「素晴らしい」「可愛らしくて面白い」などと好評だった。



ロボットとともにゲームや運動を楽しむ利用者